テーマ別ワークショップ：B
「コミュニティ活性化・多世代交流」
第１回 記録

概　要

■日時　　：2012 年 12 月 18 日（火）14：00〜16：30
■場所　　：洋光台北団地・集会所
■参加者　：37 名（地域のみなさん 21 名、大学生 1 名、行政・ＵＲ等 15 名）
■プログラム

14：00　開会・ガイダンス
・テーマ別ワークショップのねらい
・第一回全体ワークショップ報告
・本日のすすめ方
・今後のスケジュールの概要　　等
14：15　「多世代近居まちづくり・担い手養成講座」について（神奈川県から）
14：20　自己紹介「洋光台との関わり・まちでの活動など」
15：30　休憩
15：40　ディスカッション「若者との交流」
16：10　まとめ・今後の予定

ワークショップのねらい

進行役（ディーワーク中川）より、テーマ別ワークショップ「コミュニティ活性化・多世代交流」の成果イメージの説明を行いました。

■仲間がいるんだぁ…
という感じを共有できれば
安心感，心強さ，モチベーションアップに

■多世代交流のヒントが見つかるといいなぁ ▶ 経験とアイデアを出し合い共有 ▶ 試行的に実施（ノウハウ蓄積）

■こまったときに助け合える関係ができるといいなぁ ▶ 今回の出会いを通じて２〜３人、５〜６人の仲間を得る

■協力し合うことでよりよい活動、新たな活動ができるといいなぁ ▶ キーパーソン同士がつながる方法を見つける ▶ 試行的に実施（ノウハウ蓄積）

自己紹介

大きな地図に「住まい」「活動場所」のふせんを貼りながら、１人３分程度で洋光台との関わり、活動内容、問題意識、自己ＰＲなどを交えて、自己紹介を行いました。

「助け合いのＮＰＯ」「隣町でタウンカフェ」「サロン活動」「まち協」「親子ひろば」「絵本の読み聞かせ」などなど、多彩な活動が紹介されました。

完成した地図を見ると、みなさんのお住まいや活動場所は駅より南側に多く見られました。（左下の写真でも分かります）

洋光台全体を考えながら

洋光台の地図に半径 200m の複数の円を描いた大きな図を提示しました。半径 200m は徒歩での移動を、円の中心はコミュニティの場になりそうな場所をイメージしました。洋光台全域をカバーするには沢山の円が必要です。

でもバスの利用など移動手段が変わると円の大きさや数が変わります。どれも大切ですが、今回のワークショップではどのようなコミュニティを考えるかの議論も必要です。

「若者との交流」について

多世代交流のなかでいちばん難しいと思われる「若者（高校生以上）との交流」についてディスカッションを行いました。
（※印は進行役の発言です。）

若者が使っているものをこちらも知る必要がある。（ゲーム・携帯電話など）
電源が取れて無線でインターネットがあれば、若者が呼び込めて、交流拠点になりえる。

少年野球ＯＢ（中高生）に地域のことも一緒にやろう、考えていこうという話が出来るきっかけにしたいと思い、キャンプ等の集まりをしている。
大人側が「今の若者は…」と構えないでもっと気軽に話が出来ると良い。
「諦めずに声をかける」ことを積み重ねていく。「集まらないから辞めよう」ではなく、諦めずにやっていく。

携帯の使い方をたむろしていた若者に教えてもらった。パソコンの使い方も意外と教えてくれる。
電飾デザインを小学生が考え、セッティングを１年かけて中高生が行う事例を見た。そういったことも交流になるのでは。

今の高校生・大学生は「人の役に立ちたい」という気持ちがある。
洋光台のまちづくりに若者も関心があると思うが忙しい。
そういう子を集めるためには「居場所になる場がある」「何か得られるものがある」部分が必要。

「フリー」束縛されたくない。
「図書」電子化された本や音楽、ゲームも図書。ここに若者がいちばんお金を使っている。
「学び」色々なことを吸収したいと思っている人が多い。
この３つのキーワードを結びつけた場では、自然と会話の必要性が出てくるのでは。

交流が長続きするためには「共通のテーマ・話題」が必要。
ボランティア活動で防災について取り組んでいて、大学生との交流がある。

※会話の必要性を作ることは重要なポイント。行動を共にするなど、共有することも必要。

若者に対して両手を広げて待っていられる場所（拠点、事務局のようなもの）が必要。まちに対して何か考えたいと思った時に行く場所がないと立ち話で終わる。
考えを集約・整理する仕掛け（静）と活動して動く（動）のバランス。
動きを伴う真剣なお祭りを自分たちの将来のため、希望・未来のために祈りを交えてやっていく（例えば神社のお祭りのようなもの）。大人の真剣さ・一生懸命さは子ども達にも伝わる。その中に多世代が感動出来るものが生まれる。そのつながりの中で無礼講の日も組み込まれてくる、ただ真面目に集まるだけでは繋がれない部分がある。

「洋光台塾」：駅前空き店舗を使い、人生経験が豊富な高齢者とその経験を享受したい若者をつなぐ。

※若者を呼び込む必要性を感じている方が多いが、そこに多世代交流をくっつける必要性がボンヤリしているように感じます。なぜ高齢者が若者と接しなければならないのか、どのくらいの接し方が居心地が良いのか（もしかしたら眺めているだけで良いのかも？濃くなりすぎるとこちら側も苦しくなる？）を今後クリアにしていければと思います。

テーマ別ワークショップ：B
「コミュニティ活性化・多世代交流」
第２回 記録

概　要

■日時　　：2013 年 1 月 22 日（火）14：00〜17：20
■場所　　：洋光台北団地・集会所
■参加者　：31 名（地域のみなさん 17 名、行政・ＵＲ等 14 名）
■プログラム

14：00　開会・ガイダンス
　・本日のすすめ方
14：25　グループディスカッション
　①若者も行きたくなる場
　②若者も参加したくなる活動
　③実行したいこと（ひとつ）
　　（グループごとに休憩）
　④具体的空間イメージ、続ける方法
　　（実行したいことについて）
16：20　全体ディスカッション
　・グループ発表
17：10　まとめ・今後の予定

若者との交流「会話できる環境」

「若者と交流できる、会話出来る環境はどういう場所・活動なんだろう？」、「若者に『良い』と言ってもらえるものってどういうもの？」を考えるためのヒントとグループディスカッションのすすめ方について、進行役より写真等を使ってガイダンスがありました。若者が『良い・好き』と思った時に言う言葉の紹介もあり、「こういう言葉を若者が言うようなこと（場・活動）」についてグループに分かれて考えることになりました。

好き｜オシャレ｜かわいい〜｜
いいかも｜落ち着く〜｜
いやされる〜｜いい感じ｜
楽しい｜ヤバい｜超ヤバ｜
似合ってる｜私の居場所って感じ

若者が「良い・好き」と感じた時に使う言葉の例を進行役が集めました。

グループディスカッション

「い」「ろ」「に」「ほ」「へ」の５グループに分かれて（「は」グループは人数不足で他のグループに編入）グループディスカッションを行いました。

今回のグループディスカッションは、グループの人数が４〜５人とこれまでのワークショップ（全体、テーマＡ・Ｂ）の中で最も少ない人数で行いました。これは、参加している人全員がたくさんのアイディアや意見を出すため、参加者同士がお互いの考えを良く知るためです。そしてリラックスして会話が出来るように各グループにお茶とお菓子も用意しました。

「い」グループ

「ろ」グループ

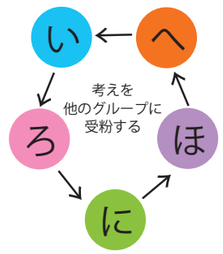
「に」グループ

「ほ」グループ

「へ」グループ

受粉タイム

さらに今回は「受粉タイム」を設けました。「受粉タイム」とはグループの１人が他のグループに行き、自分のグループの考えを伝え、他のグループの考えを聞き、自分のグループでその考えを伝える時間です。この時間により、新たな考えが生まれたり、これまでの考えがより深まったと思います。



例えば、「に」グループは「ほ」に考えを受粉して「ろ」の考えを受粉されました

全体ディスカッション

長いグループディスカッションの後は、グループごとに考えた内容を発表しました。ここでは各グループの発表内容の一部を紹介します。（発表用紙の内容は裏面にあります。）

い　近隣の高校に声かけをして、高校生主体のイベント（ブース・模擬店を出してもらう）を行い、地域との関わり方をまず知ってもらう。まずは若者がやりたいことが中心で、大人は周りでサポートしていく。とにかく集まってもらわないと若者が何に魅力を感じているのか分からないので、集まってもらうことから始めようということ。考えの出発点は自分たちの世代が参加したくなる場等を考えるのは大間違い。若い人の意見を取り入れて動くべきだと思う。

ろ　企画から開催までのプロセスを一番大事にして、そこで共同作業ができるイベントやお祭りなど大きいものがあれば、若者も自分の持っているアイディアを発揮できる場にもなり、多世代交流という目的にも良いということで、将来、洋光台の伝統となるものを創り上げていきたい。伝統的なものから流行りのものもあり、衣装の作成などで、いろんな世代が関わって、融合していきたい。スペースは最小で駅前広場。夢はふくらんで南公園から西公園まで３号線を練り歩くイメージ。

に　若者は 20 代、大学生や若手の社会人で、平日は夜しか戻ってこないが、休日やお祭りの日はたくさんいるイメージ。若者も行きたくなる場のひとつは「遅くまで営業している店」。『Cafe もざいく』…基本はカフェやバーだけど、多様な活動があり、参加者は店長もできる、夜遅くまでやっている、情報や活動、運営スタイルも色々あり、ごちゃっとしたカフェのイメージ。その結果、洋光台のブランドを生み出せるようなことをしたい。情報基地として情報誌を発行したいという想いもある。

ほ　若者も行きたくなる場は、時間を気にせずにいられる、おしゃれな、オープンな（集まる人も、運営する人も）、情報が集まる場。興味がないことでも、すごいのではとお互いが認め合える活動が、若者も参加したくなる活動なのでは。一人一人に役割ができ、やりがいが感じられることが年齢に関係なく必要。実行したいことは「若者運営カフェ」。若者の活動時間外は中高年でやっていく。ほぼ無休、いつ行っても開いている、受け入れてくれる状態が望ましい。利益を生む仕組みも必要。

へ　若者は高校生から 20 歳くらいのイメージ。実行したいことは「まんがネットカフェ」、まずは若者に来てもらう場所を作り、そこに中高年やその他の世代が入っていくという逆の発想。節約志向が強く合理的な人が多いが、その中でもお金を使う部分だろうと思う。プラス自己表現出来るオープンステージでイベントとしてライブやダンスをやる。場所は中央団地の空き店舗。イベントは時計のある広場でやり、しまっておいたテーブルやパラソルを出して、イベントとカフェスペースが徐々に繋がっていければ良い。

爆笑が起きた発表も

終了時間が大幅に過ぎてしまい、すみませんでした。次回以降は「『行動をおこす』ことを前提に何をしたら良いかを考えましょう」という進行役のまとめで終了しました。

■「若者と会話できる環境」の具体的イメージ：グループディスカッション成果

グループ			い	ろ	に	ほ	へ
① 若者も行きたくなる場			マックのような気軽に集まり自分のやりたいことを語れる「場」	・カフェ ・図書館 ・多目的に使える貸しスペース ・夜も営業しているレストラン	・遅くまで営業している店 ・↑いくつかあると良い（はしご） ・広さ：この集会所くらい ・入りやすい ・音楽スタジオ ・バー ☆若者とは… 20代：・平日は夜だけ 　　・祭りにはくる	・時間を気にせず話せる、おしゃれな、学食的な場所 ・形もオープンで、集まる人達もオープンな人柄 「人は人に集まる」 ・情報が集まる場	＜イメージ＞ 高校生～20代前中心 ＜行きたくなる場＞ ・友達のいるところ ・同年代で集まるところ ・たむろする（マンガ喫茶、フェイスブック） ・小中ならお祭りは来るが、高校生以上は友達がないと来ない ・自分が興味あるものをしているところ（サッカー、野球場、コスプレ会場など）
② 若者も参加したくなる活動			・洋光台の新しい伝統となるようなイベントを作りあげていく活動 ・若者がやりたいことを大人がサポートする	・若者の持っている知識を披露する活動 →パソコン、スマホ教室 ・夜や土日にもあるサークル活動（アロハ、いけばな等現在あるものも土日にあれば…） ・スポーツサークル →サッカー、野球、フットサル ・開催までのプロセスで共同作業ができるイベント、お祭り（例）音楽、ダンス	・お祭りには良く来る ・地元のみんなに会える ・夜遅くまで遊びたい ・自分たちだけでやる ・まちづくり活動 （参加させたくなる活動） ・バーの経営 ・↑お試しでできると始めやすい ・ライブ ・洋光台ブランドづくりへの参加	・自己表現活動（音楽、スポーツ） ・認め合う活動 ・若者が企画、運営できる活動（カフェ、バー） ・得るものがある活動（やりがいがある、役割がある）	・音楽、ダンス等を自己表現できる ・オープンスペース、路上ライブ ・オープンカフェ ・ミニ図書館、まんが
③ 実行したいこと			高校に声かけをし、イベント参加 ・南陵高校 ・磯子高校 ・磯子工業高校 ・氷取沢高校 高校毎でブース（模擬店）を出してもらう	将来、洋光台の伝統となるようなお祭りを企画から開催まで お祭り→音楽、ファッション、踊り等の融合が実現できる	『Cafe　もざいく』 ・カフェバー、情報基地 ・多様な活動 ・店長もできる ・夜遅くまでやってる →洋光台のブランドを生み出す	若者運営カフェ	◎まんがネットカフェ ・自己表現できるオープンステージでライブ、ダンスイベント
④	具体的空間イメージ	年間スケジュール・オープン日	夏のイベント開催 3月末から企画し月2回で集まる	月1回会合、10月頃開催	週1休み 9：30～26：00	ほぼ無休 8：00～24：00	火、木、土、日 15：00～19：00 イベント年10回（1月、11月なし） 月末の土曜日
		参加人数	各学校複数人（ボランティア部、生徒会、有志）、 WSの参加者、町内会	たくさん	3グループ／15～20人＋10人＝30人 →100人／1日		
		スタッフ人数	10人位（事務局） 登録人数20人位	65人	1日常時3人×2ローテ（AM･PM） 夜はレンタル	20人（1日6人）	・1日2人4時間×2 ・イベント：1日3人4時間
		最小スペースの大きさ	北団地、中央団地の集会所位（60㎡位）	駅前広場	3グループ活動したい ライブやりたい →洋光台北団地集会所くらい	80㎡	空店舗1つ約20坪
		場所の特徴		人が多く行き交い、集まれる	・遅くまで営業（～26時） ・ライブができる ・居心地良い ・テラス席あり ・情報ステーション	・駅の真正面 ・3階建 ・ガラス張 ・木に囲まれている	一人でも楽しめるし、みんなでコミュニケーション
		設備	机、イス	審査会場	・防音 ・スピーカー（音響） ・カフェバーのためのキッチン	・簡易なキッチン、冷蔵庫 ・バックヤード	パソコン、テーブル、イス、本棚、カウンター、自販機
		備品	お茶菓子 打ち上げ用の飲み物（バーベキュー）	音響機材	イス、テーブル、カフェセット	テーブル、イス、オーディオセット、プロジェクター、パソコン	イベント用テーブル、パラソル、イス、音響
		その他		トロフィー、賞品、投票用紙		本（雑誌、絵本）、情報誌	
	続ける方法	スタッフの役割分担・ローテーション等	・原資をどうするか 1.URから 2.寄付（商店街等） ・スタッフの人件費をどうするのか（ボランティア？） ・NPO化 ・高校生、若者がメリットを感じるもの	自治会単位で競えるように→運営ノウハウを継承		・1日3交代（朝、昼、夜） ・利益を生む仕組みを考える（小箱ショップ、貸しスペース） ・周辺企業の協力を得る	＜役割分担＞ ・まんが図書の仕入れ管理：ＫＫ ・経理：ＳＴ ・運営、店長：ＳＮ ・イベント、広報：ＫＲ ＜ローテーション＞ ＫＲ：木、日 ＳＴ：土、日 ＳＮ：火、土 ＫＫ：火、木
		スタッフの世代交代の仕方			多世代で運営→徐々に入れ替わる	常に若者を入れる	・利用者にスタッフになってもらう ・メリットは、タダで時間外使える
		スタッフのコミュニケーション			ミーティングこまめ	・お客さんとして来た人で興味のある方にスタッフになってもらう ・お客さんとの会話を大切にする	ミーティング1ヶ月に1回
		その他				スタッフミーティング	
⑤ ④を実行する連携方法		今日のグループで連携					
		洋光台での連携				商店街との連携	

テーマ別ワークショップ：B
「コミュニティ活性化・多世代交流」
第３回 記録

概　要

■日時　　：2013 年 2 月 26 日（火）14：15〜17：10
■場所　　：洋光台北団地・集会所
■参加者　：37 名（地域のみなさん 19 名、大学生 1 名、行政・ＵＲ等 17 名）
■プログラム

14：15　開会
- ・ＵＲの取り組み紹介
- ・3/17 地域シンポジウムのお知らせ（市より）
- ・ワークショップのこれからについて

14：25　全体ディスカッション
- ・「えん」の考え方について
- ・前回のおさらい
- ・今回のテーマについて

15：20　グループディスカッション
- ・「Cyoi アクション」の具体的内容

16：15　全体ディスカッション
- ・グループ発表

17：00　まとめ・今後の予定

UR の取り組みとﾜｰｸｼｮｯﾌﾟのこれからについて

今回はＵＲより梅の里まつりでのパネル展示の報告と『ＵＲルネッサンス in 洋光台』の取り組みについての説明がありました。住民・行政・ＵＲが同じテーブルにつき、有識者のアドバイスを得ながら洋光台が末永く住みよいまちであるための検討を行う「洋光台エリア会議」をはじめ、みなさんに参加して頂いている「まちづくりワークショップ」等、多くの人々の参画によって、プロジェクトを進めて行く…そんな話がありました。（詳しくは配布した資料で確認して下さい）

また、まちづくりワークショップの基本的スタンスの再確認と平成２５年度の進め方案、次回日程案の説明がありました。

「えん」の考え方について

これまでに出た多くの意見、これから考え・行動すること、そして参加している人が「つながっている」ことを共通認識するためのキーワードとして『縁』を中心とした複数の「えん」を考えてみました。今後のまちづくりの役に立つものになるように整理して、全体ワークショップ披露したいと思います。

Cyoi アクション

「cyoi」って何だ？と悩んだ方が多いと思います。「Cyoi」は「ちょい」です。今回は、ここに集まったメンバーで実行出来ることを考えたい。でも、常時使える場所はないし、資金もないらしい…。そんな中で実行出来るのは「ちょっとしたこと」。それを「Cyoi アクション」と名付けました。同人誌の即売会、コスプレイベント、梅干し飛ばし？？…地域（洋光台）ルを守って、時には少しルールを変えたり、自分たちの考えを変えたりしながら、すぐに出来る「Cyoi アクション」をグループで考えることになりました。

Cyoi アクションの狙い

会話だけでは分からないことが多いし、確信が持てないなあ。それを解決するには実践（アクション）してみるのも一つの方法かも。実践で学び工夫していこう！

グループディスカッション

「多」「世」「代」の３つのグループに分かれ、自分たちで実際にできる「Cyoi アクション」の内容とやり方、参加者、やる時期等を考えました。全体ではシーンとなることも多いですが、グループでは活発な意見交換が行われました。

全体ディスカッション

グループディスカッションの後は、グループごとに考えた内容を発表しました。ここでは各グループの発表内容の一部を紹介します。（発表用紙の内容は裏面にあります。）

多　「まちの人探検」。ポイントは「人」。若者がいそうな飲み屋に行き、雑談して交流する。その他にも小学生、学校の先生、高齢者など、色々な場所に出かけておしゃべりしてみる。想像で決めずにリアルな子ども、リアルな若者、リアルな高齢者を知る。それが第一歩で、その先は色々なことが見えてくるので、その中から見えたことを次のステップにつなげていく。押しつけではうまく行かないので、自分たちを見てもらって来たいと思った人には来てもらうぐらいのさじ加減で考えている。

世　駅前広場を使った案が色々。のど自慢大会、高校生などを含めたライブ、ちょっとしたファッションショーに孫と参加する、ダンス大会など。広場を借りて北側に子育て世代のママ達等が集まる場を作る。多世代を意識した取り組みをしたい。まず若者の声を聞いたらどうか。子ども達とあちこち歩いて遊び場マップを作る。北団地以外にも桜が綺麗な場所があるはずなので桜マップを作る。若者、ジュニア、シニアなどたくさんの人がいるので話を聞こうがグループの Cyoi につながった。

代　本や限定したオモチャを集め、いずれはまちの小図書館や広場で集めたオモチャを使ったイベントを。洋光台に図書館がないことがずっと気になっていた。本があると人が行き交ったり、本を間に人が交流出来る。「Cyoi」なので、自分たちで持ち寄るのと、洋光台内のイベントに便乗して広報して集める。私たちがちょこっと出来るのは、チラシを作って家の周りに配る、公共施設に置かせてもらう、掲示板に貼ること。本等は置き場が必要なので、そこだけはＵＲ等に協力をお願いします。

最初の Cyoi アクションは…

桜は時期がすぎると１年待たなければいけなくなる、飲みに行くのは今日にも出来る、でもそんなに集まる回数もとれない等の議論の末、来年向けの桜マップを作成するために、桜の場所を探して歩き地図を作り、終わったら一杯飲むという２つをくっつけた欲張りな Cyoi アクション案が生まれました。実行日は桜前線の様子を見ながらということで、進行役が３月 10 日の全体ワークショップで日程を確定させた案を作成してくることになりました。全体ワークショップでは、これまでのテーマＢの流れと今後についてを発表することを確認し、第３回ワークショップは終了しました。

■今、実行できる「Cyoi アクション」（具体的に）

多グループ

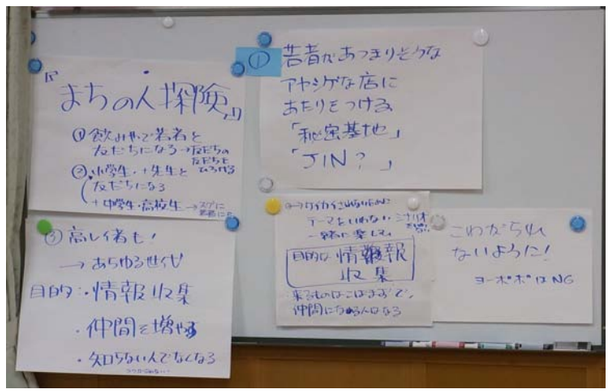
●『まちの人探検』
①飲み屋で若者と友達になる
→　友達の友達を広げる
②小学生＋中学生＋高校生＋先生と友達になる
→　中・高生はすぐ若者に！
③高齢者も！
→　あらゆる世代

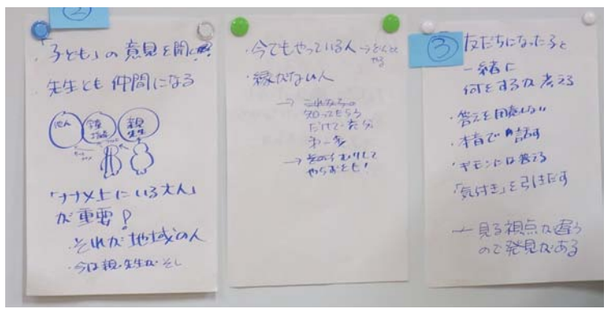
目的
・情報収集
・仲間を増やす
・知らない人でなくなる、怖がられない

若者が集まりそうなアヤシゲな店にあたりをつける
→「秘密基地」、「g-in」
→　警戒されないために
・テーマ、シナリオを言わない
・一緒に楽しむ
・目的は情報収集
来る者は拒まずで、仲間になる人はなる
こわがられないように！

●「子供」の意見を聞く
先生とも仲間になる
「ナナメ上にいる大人」が重要！
・それが地域の人
・今は親、先生がソレ
今でもやっている人
→　どんどんやる
縁がない人は
→　知ってもらうだけで充分第一歩
→　ムリしてやらずとも！

●友達になった子と一緒に何をするか考える
・答えを用意しない
・本音で話す
・疑問には答える
・「気付き」を引き出す
・見る視点が違うので発見がある

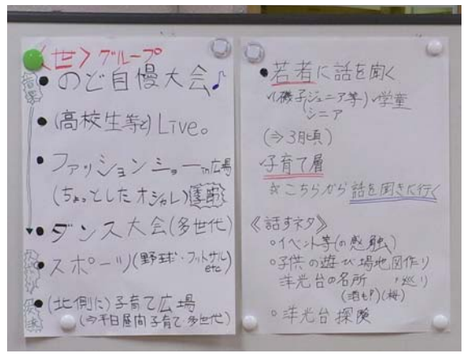




世グループ

●のど自慢大会
（高校生等と）Live
●ファッションショー in 広場
→　ちょっとしたオシャレ、季節
●ダンス大会（多世代）
●スポーツ（野球、フットサル、etc）
●（北側に）子育て広場
→　平日昼間子育て・多世代
●若者に話しを聞く
→　磯子ジュニア、シニア等、学童（3 月頃）
→　子育て層
→　☆こちらから話しを聞きに行く

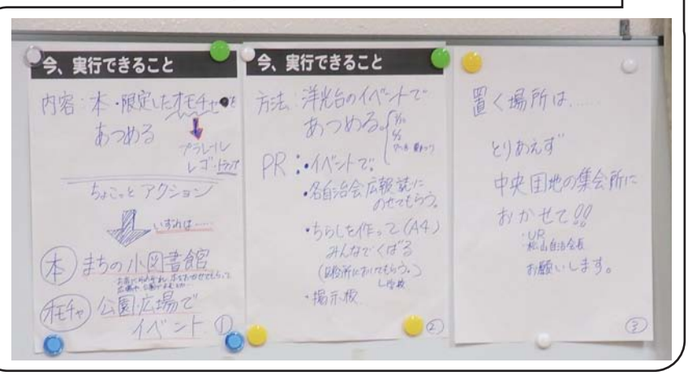
＜話すネタ＞
・イベント等（の感触）
・子供の遊び場、洋光台の名所地図作り、巡り
→　酒も！桜
・洋光台探検



代グループ

内容：本、限定したオモチャを集める
→プラレール、レゴ、トランプ
↓いずれは…
本　→　まちの小図書館
お店にそれぞれ本を置かせてもらい
広場や公園で読むとか…
オモチャ　→　公園、広場でイベント

方法：洋光台のイベントで集める
→　3/30、6/2、7～8 夏祭り

PR：・イベントで
・各自治会広報誌に載せてもらう
・ちらしを作って (A4) みんなで配る
（区役所、学校に置いてもらう）
・掲示板

置く場所は…
とりあえず中央団地の集会所に置かせて！！
UR、自治会長お願いします